

生徒総会 校長あいさつ

まず、はじめに、今日の生徒総会に向けて昼休みにリハーサルをしたり、昨日も遅くまで残って準備をしたりしていた生徒会執行部や学級委員の皆さん、本当にありがとうございます。よりよい生徒総会にしようという皆さんの熱意が伝わってきて、とても嬉しく思いました。

さて、そもそも生徒総会の目的は何でしょうか。学級討議の前に、各クラスで学級委員から生徒総会を通して「主体性」や「社会性」を身に付けてほしいという説明があったかと思えます。少し難しい言葉で言えば、今日の生徒総会は民主主義社会にとって大切な『当事者意識』を育成する機会であり、今の日本の若者にとって必要不可欠な場だと考えています。

なぜかという、次のような調査結果があるからです。世界9カ国の18歳の若者を対象にしたアンケートで、「自分の力で社会を変えられると思うか」という問いに、諸外国の18歳は6割近くが「変えられる」と思っているのに対し、日本の若者はわずか18%しか「変えられる」と回答しませんでした。また、「社会の課題に対し周りの人と積極的に議論している」と答えた人も、諸外国では8割近いのに対し、日本では27%しかいませんでした。

なぜそのような結果となるのか。私は日本の若者の能力が低いとか、意欲に欠けていると言うことが原因だとは思いません。ただ単に、そうした経験を小・中学校であまりしなかったことが原因だと考えます。だからこそ、この生徒総会でいろいろな意見を述べたり、質問したりして積極的に議論を重ねてほしいと思います。そして、自分たちの力で学校が変わったという経験を積んでほしいと願っています。日本の未来はあなたたち一人ひとりに懸かっているのです。アメリカの大統領で最も人気があったケネディ大統領は、その就任演説で「国があなたたちに何をしてくれるのかと考えるのではなく、あなたたちが国に対して何ができるのかを考えてほしい」という有名な言葉を残しました。まさにその通りで、「あなたたちが学校に対して何ができるのか」を考えながら、今日の生徒総会に臨んでみて下さい。

ところで、今日の資料の中には、生徒会執行部の取組が「成長モデル」という形で示してあります。そこには、大中学生の現状を受けて、これからめざしていく姿が明確に示してあります。そして、そのような姿を実現するためにいつまでに何をするのが分かりやすく書かれてあると思います。このような「成長モデル」を活用して生徒会活動を行っている学校はまだ少なく、他の学校の見本となる先進的で素晴らしい取組だと感心しています。

また、その中で生徒会四役の活動テーマは「いい意味で『変わったな』と思える大中」となっています。とてもいい言葉だと思いますし、実際、形骸化していた生徒議会を復活させたり、ホームページを使った情報発信だったり、マスコットの大ちゅんの別バージョンの募集などいろんなところで生徒会の新しい取組が始まっています。まさに生徒会のスローガンである『革新』が起こっているとワクワクしているところです。いつも言いますが『自分たちの学校は自分たちで創る』という理念を生徒会執行部が中心となって全校生徒に浸透させてくれていることを大変嬉しく思っています。

長くなりましたが、本日の総会がここにいるすべての皆さんにとって有意義なものになることを期待して、あいさつといたします。